

《カンパ活動の御礼》

### 互いに手をさしのべよう・仲間と共に！

未曾有の大地震が発生し、目を覆う光景がテレビ画面に映されたのは2011年3月11日のことでした。地震で壊れたビル、津波に押し流される車・家屋、画面には映し出されませんでした、多くの人の命までもさらわれました。

私たちは、そのことを決して忘れまい、地震大国日本の実情を再認識し、復旧・復興、再生に向け、基幹労連政策の一つとしても掲げ、加盟組合・構成組織、そして各県本部・県センターの仲間とともに種々の取り組みを進めています。

とある神戸オルグの際に、東日本大震災の復旧に向けて、誰よりも想いを馳せられたのは阪神・淡路大震災を経験した皆さんであったと聞き及びました。労働組合事務所に、百万円の束をお持ちになり、「連合をはじめ、基幹労連、〇〇組合の皆さんのご厚情を忘れない。そのお陰で、元気に働き、無事に退職することができた、その一部を．．．。」

この度、九州地方において、そこに暮らす多くの方々が想像もしていなかったであろう大地震が発生しました。平成28年熊本地震、熊本・大分を中心とする今回の地震は、あらためて自然災害の恐ろしさをまざまざと見せつけるものとなりました。

基幹労連は、4月14日・16日の地震の発生を受け、4月18日に中央災害対策本部を立ち上げ、まずは、組合員と家族の安否、被害状況確認、そしてカンパ活動を決定し、全組織に依頼いたしました。

家屋がつぶれ、橋が、山が壊れ、尊い命が失われ、避難生活を余儀なくされる姿を、私たちは、またもや眼前に突き付けられました。その現状を見て、真っ先に動いたのは、3.11東日本大震災を経験した仲間でした。情報の収集とその方法など、今やるべきことを、いち早く教授いただいたのは釜石からの一報でした。感謝とともに、事あるときにこそ仲間の大切さを身にしみて感じたところです。

5月末、各組織の精力的な対応で多くの善意の塊がカンパという形で集まりました。そして、基幹労連が全国に持つ機動部隊「JBUパワーバンク」も出動しています。復旧には、多くの時間を要するでしょうが、被災された皆さんの思いを忘れることなく対応してまいります。

東日本大震災以降、その言葉が大きくクローズアップされた「絆」、その文字は糸へんに半分と書きます。互いに糸を半分ずつ持ちながら、心の痛みを、悲しさを分かち合い、元気な明るい笑顔に変えるまで寄り添っていかねばなりません。

基幹労連全組織の組合員の皆様と関係する皆様に、カンパの御礼を申し上げますとともに、引き続き支援をお願いいたします。

ご安全に

2016年5月31日  
日本基幹産業労働組合連合会  
事務局長 神田 健一